

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所

Global Research Institute for Mobility in Society Nagoya University

Since 2019.Apr.1st



材料・機械・情報・交通

グリーンモビリティ
連携研究センター
(GREMO)

(2011-)

モビリティ領域 (2014-)

マテリアル
イノベーション研究所

(2018.10-)

モビリティ社会研究所
(New GREMO)

(2019.4-)

Global REsearch Institute for MObility in Society (2019.4-)

未来社会創造機構 (2014-)

オープンイノベーション型
産学連携プロジェクト

(2016-)

OPERA

名古屋大学COI

(2013-)

ナノライフシステム
研究所

(2018.10-)

産学官連携のオープンイノベーションにより

研究プロジェクトを生み出し続け、人が育ち、価値が循環する組織

本格的産学官連携の経験を生かした
オープンイノベーション
研究プロジェクト創出・運営組織

社会実装と学理創出の
エコシステム形成

企業

官公庁等

文科省、内閣府、国交省
経産省、厚労省 等

JST、NEDO 等

愛知県、名古屋市、豊田市
春日井市、あま市
幸田町、豊山町
飛島村、静岡県 等

東海国立大学機構（仮称）
他大学・研究機関

海外連携機関

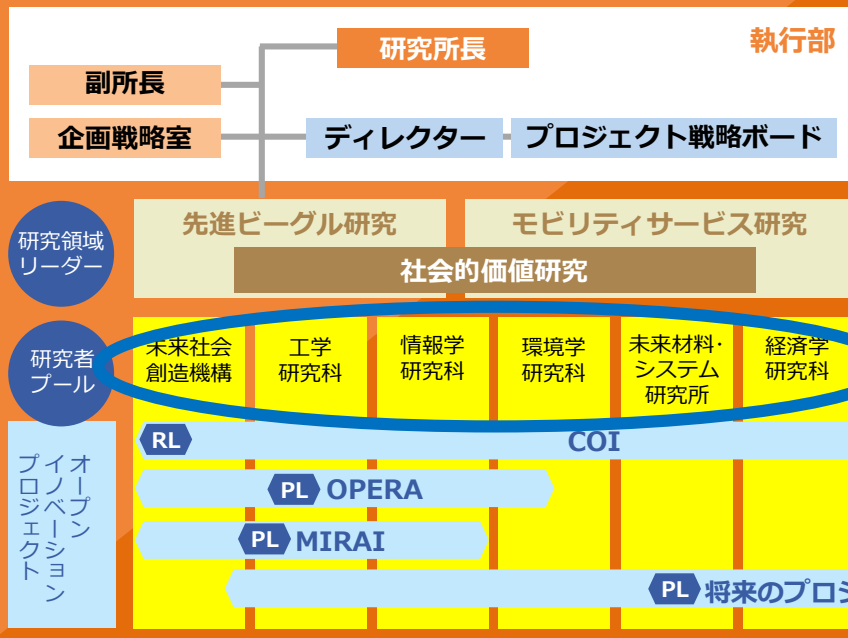
（MIT、ミシガン大学、SAFER
シンガポール国立大学 等）

未来社会創造機構

事務（研究協力部等）などのサポート体制

オープンイノベーション（OI）推進室

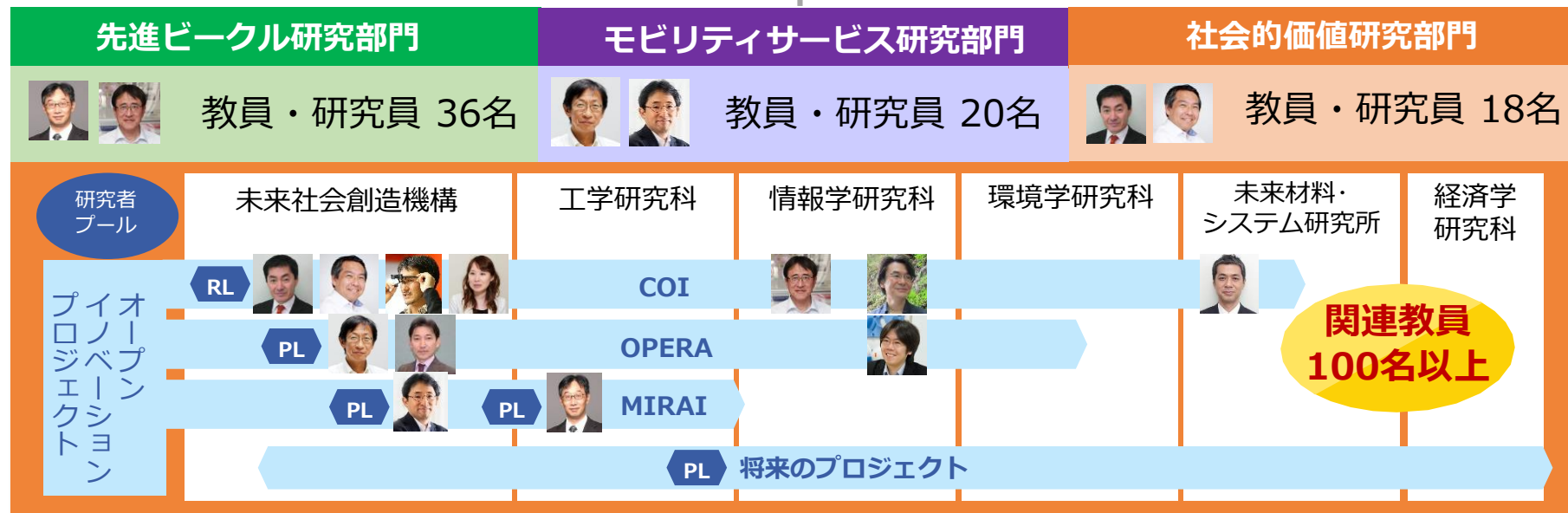
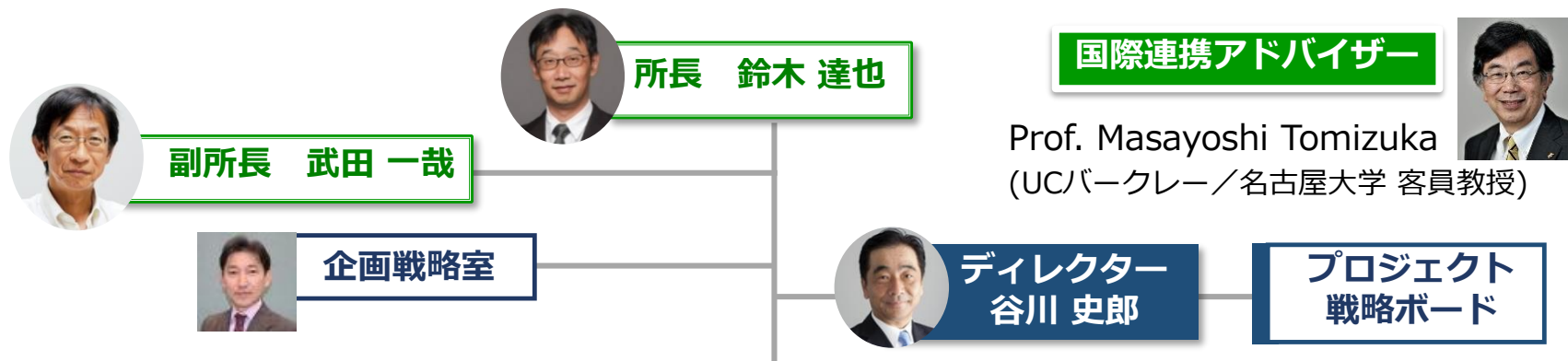
モビリティ社会研究所



ナノライフ
システム
研究所

マテリアル
イノベーション
研究所

未来社会創造機構 モビリティ社会研究所



ドライバや周辺交通参加者との調和を達成する知能の創出

SMART
人と賢く調和

利用者の心情を理解し多様な選択肢から最適な選択を提供

ACCOMPANYING
人に寄り添う

ヒューマン・セントリック・モビリティ (HCM)



DEPENDABLE
人を安心・納得させる

誰もが安心・納得して使える
システム設計のための方法論

ACCESSIBLE
人に役立つ

誰もが、いつでもどこへでも
ストレスなく移動できる仕組み

ヒューマン・セントリックな視点から

クルマの革新

1. 説明できる運転知能技術
2. リアルタイムに周辺交通参加者と合意形成する技術
3. 個人個人に適合する運転支援・自動運転技術

モビリティサービスの革新

4. モビリティの需給取引とそのプラットフォーム
5. 過去を再現し、未来を予測する大規模交通シミュレータ
6. モビリティシステムの安全性を説明する手法

モビリティ社会の革新

7. CASE化を見据えた地域交通システム
8. CASE時代に必要とされる道路利用料金システム
9. 新しいモビリティシステムのリスクマネジメントと社会受容性
10. レベル4自動運転移動サービスを実装するための法制度

ヒューマン・セントリック・モビリティ

ミッション2

人材育成
プログラム博士人材育成
産業人材育成SMART
人と賢く調和ACCOMPANYING
人に寄り添うDEPENDABLE
人を安心・納得
させるACCESSIBLE
人に役立つヒューマン・セントリック・モビリティ
(HCM)

ミッション1

共同研究
プロジェクト名古屋大学COI
OPERA等

社会に提供する最先端プラットフォーム

200万km
LIDAR走行高齢者
ドライブ

運転行動

大規模交通
シミュレータリアル
テストコース
(名大キャンパス)Harmoware
協奏サービス
プラットフォーム

ミッション3

組織的な産学連携

企業間のネットワークづくり

一般社団法人 HCMコンソーシアム (仮)

特徴
1

人間中心の視点から学際的な 研究・実証を推進

工学、情報学、経済学、社会学・法学、
認知科学、心理学等との融合研究を通じて、
技術・社会システム構築にフィードバック

SMART
人と賢く調和ACCOMPANYING
人に寄り添うDEPENDABLE
人を安心・納得
させるACCESSIBLE
人に役立つヒューマン・セントリック・モビリティ
(HCM)

機能分化による
研究推進体制の充実・強化



知の集積

特徴
4

産学連携による新たな人材育成－産学共創教育－

プロジェクトと連動したプログラムで、
総合力の持った博士課程人材の育成・社会人のリカレント教育を推進
※ 先進モビリティ学を拡充し、新しい大学院プログラムを構築する

特徴
2

ディレクターとプロジェクト戦略ボードの設置

学外の有識者・実務者が、ニーズ(産)と事業・施策(官)と
シーズ(学)を持ち寄り、新規プロジェクトの創出を図る

- オープンイノベーションに根ざした組織的な産学連携
(産産学学官官連携)の実現
- 社会変化に迅速に対応するプロジェクト設定・運営

特徴
3

ソフト・ハード・データに関する モビリティ実証プラットフォーム (キーテクノロジー+テストベッド)

自動運転車両



車両性能実証装置

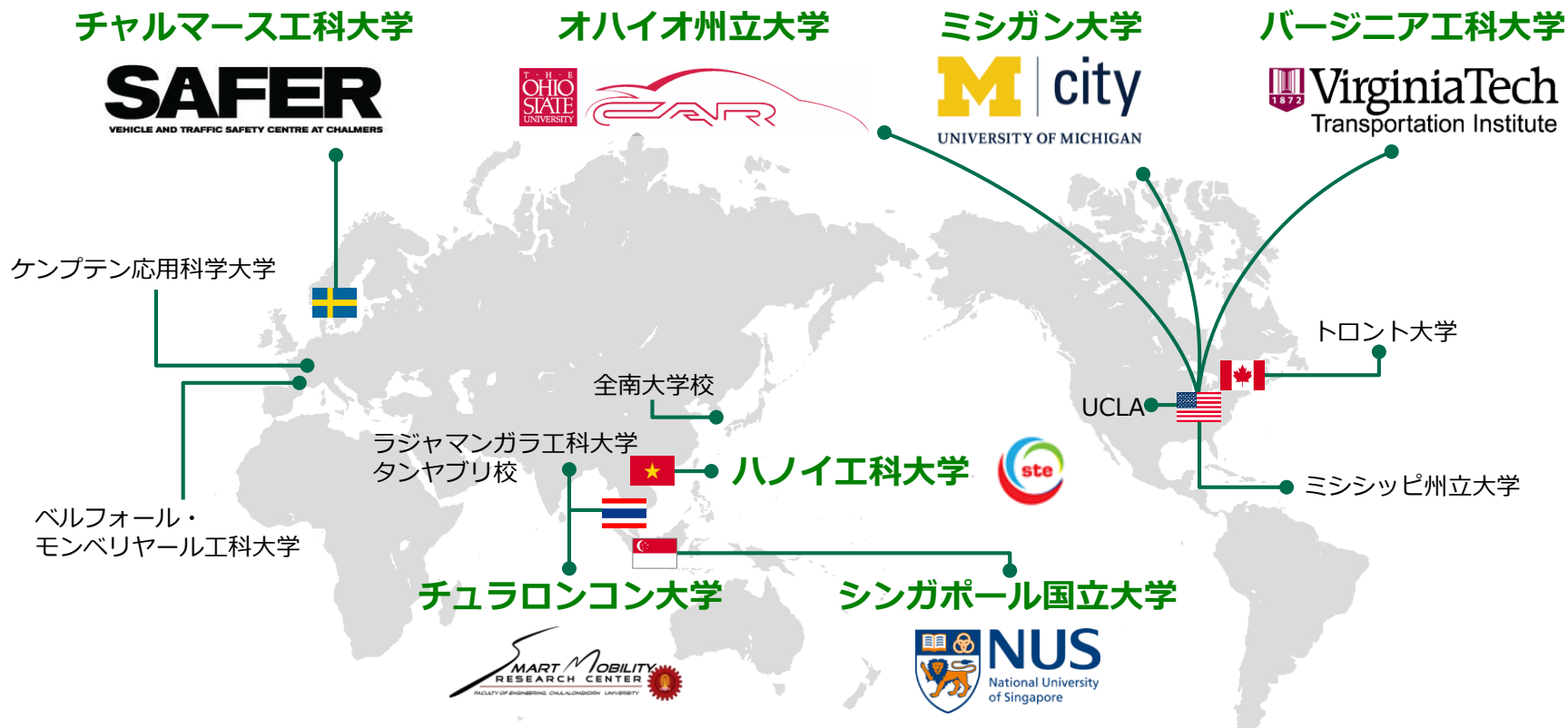
本格的VR機能を活用した
ドライビング・シミュレーター
実走行時のLiDARデータ
高齢者DB等



世界発オープンソースの
完全自動運転ソフトウェア



豊富なモビリティ研究資源・多彩な人材を活用し、
ヒューマン・セントリックな視点から未来のモビリティ社会を拓く



ご支援・ご協力
よろしくお願いします